

## 「発熱」

### 37.5℃過ぎれば発熱

体温が何度になれば発熱と考えるかは、体温計の種類、測定する場所、外気温、個人差などの要因で変わってきます。一般には、通常37.5℃を越える場合を発熱と考えます。

### 高熱が続くと頭が悪くなる？

脳障害の主な原因は高熱ではなく、脳炎や髄膜炎のような脳の病気による発熱で起こります。熱は通常は上限なく上昇し続けることはなく、40℃前後で止まります。もし41℃を越えた場合には、脳障害を起こし、危険な状態ですので、解熱剤で対処せず、病院受診する必要があります。

### 熱は下げないといけない？

発熱は体の異変を知らせています。また細菌やウィルスなどは発熱により増殖を抑えられます。解熱剤は一時しのぎ、病気を治してはくれません。熱が下がるために治ったかのように勘違いをして、無理をしてしまったりして、却って病気を長引かせることとなります。

### 解熱剤を使っても良い場合は？

40.5℃以上の発熱、頭痛・筋肉痛・耳痛などの痛みのある時、高熱のために不機嫌・食欲低下・不穏などがみられるとき、熱性痙攣を起こしたことがある場合などです。



### 安全な解熱剤は？

子どもの解熱剤で最も安全だと言われているのが、アセトアミノフェンです。その他の薬は脳症などを起こす要因になるなどの理由から、あまり小児科では使用されていません。しかし安全といわれるアセトアミノフェンでも熱が下がりすぎたり、量が多すぎると肝臓障害などを起こしてきます。熱が下がらないからといって短時間に繰り返し使わないようにしましょう。また飲み薬と座薬でも同じアセトアミノフェンだと体に入れば同じですので、併用しないで下さい。